# 令和２年度指定管理者評価シート

## １．管理運営の状況等

| | |
|---|---|
| (1)施設名 | さいたま市宇宙劇場 |
| (2)施設概要 | ①所在地　さいたま市大宮区錦町682番地2　JACK大宮<br><br>②施設の設置目的　市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため<br><br>③施設の概要　３～５階　ホール　傾斜型ドーム（直径23m）<br>座席数　280隻（車いす席あり）<br>５階　第１集会室・第２集会室　定員各36名<br>第３集会室　定員20名、研修室　定員48名 |
| (3)指定管理者 | 株式会社五藤光学研究所 |
| (4)指定期間、指定管理料 | ①指定期間<br>平成30年4月1日～令和5年3月31日<br>②指定管理料<br>平成30年度106,510千円、令和元年度109,286千円、令和２年度123,088千円 |
| (5)施設の管理運営の内容 | ①運営業務の状況（利用状況含む）<br>◇利用状況<br>・会議室等利用者数22,098人（前年度54,386人）<br>・ホール関連事業利用者数13,874人（前年度65,660人）<br>◇業務実施状況<br>・集会室等の貸出し<br>・プラネタリウムの投映、全天周ドーム映像の上映<br>・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施<br>②維持管理業務の状況<br>・施設設備、備品等の保守管理<br>・施設の清掃<br>・施設の機械警備<br>③その他の業務<br>・プラネタリウム「市民の時間」<br>・放送大学共催特別講演会「星座の成立とギリシャ・ローマ神話」<br>・特別講演投映「さいたま発！宇宙の旅に出かけよう！」<br>・企画展示「はやぶさ2」<br>・日本宇宙少年団さいたま支部に対する活動支援 |
| (6)収支状況 | ①収入<br>・利用料金収入　11,231千円（前年度31,550千円）<br>・指定管理料　123,088千円（前年度109,286千円）<br>・その他収入　1,150千円（前年度263千円）<br>②支出<br>・人件費　106,728千円（前年度106,728千円）<br>・事務費　2,797千円（前年度4,352千円）<br>・施設管理費及び事業費　27,377千円（前年度34,505千円） |
| (7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応 | ・5階集会室・研修室でWi-Fi利用を開始した。<br>・新型コロナウィルス感染防止の観点から２０名と人数制限していた「星をみる会」の定員数を、感染症対策を徹底して４０名に増員した。<br>・劇場ホール内に小さな子ども連れの専用席「サポート席」を設置した。<br>・プラネタリウムの「星空の時間」のテーマの内容について、Twitterやwebページにて、紹介を始めた。 |
| (8)その他 | |

2. 提案内容の達成状況

（指定管理者から提案のあった項目の達成状況）

| 提案内容 | 達成状況 |
|---|---|
| 市民の平等利用のための方策 | ユニバーサルデザインの考え方に基づき、全スタッフに対して社会教育施設向けの接遇研修、施設ミッション研修等を実施。障がい者の皆さまが安心してご利用いただけるように筆談や職員による手話での案内を実施。 |
| 施設の安全管理 | 「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」をベースとし、さいたま市消防局の指導をいただきながら大宮情報文化センターの防災訓練（地震・火災）、宇宙劇場独自の防災訓練（火災）を実施。<br>また、新型コロナウィルス感染防止対策として、マニュアルの整備、消毒液・飛散防止フィルム等の設置、フェイスシールド・マスクの着用、利用者への案内、館内消毒等を徹底した。 |
| 利用者の満足度の向上 | 新型コロナウィルス感染拡大防止を徹底しつつ、「宇宙劇場まつり・プチ！」を実施、国立天文台から縣秀彦氏を招いて特別講演投映「さいたま発！宇宙の旅に出かけよう！」、さいたま市の誇りである若田宇宙飛行士のメッセージを伝えるプラネタリウムコンテンツ「CHALLENGE TO THE UNIVERSE～若田光一の宇宙～」を投映したほか、放送大学共催特別講演会「星座の成立とギリシャ・ローマ神話」を実施。<br><br>有名アーティストの曲を使用した自主制作によるプラネタリウムコンテンツも投映し好評をいただいた。<br>また、毎月定期的に天体観望会（星をみる会）を実施し、多くの利用者に本物の天体を観察する機会を市民ボランティアと連携して提供し、アンケートにおいても感謝の声をいただいた。 |
| 効果的なアンケートの実施 | ここ2年間の来館者アンケート結果は、その多くが5段階で4.5以上の評価となっており、天井効果を示す状況であった。そこで、今年度は、世界的に多くの企業で実施されているネット・プロモーター・スコア（Net Promoter Score：NPS）を採用し、実施。今年度のスコアは65.6であった。このスコアは，指定管理者が運営している施設の中で一番高い値であった。 |
| 天文・科学・文化の普及活動 | 科学や天文知識の普及を目的とした講演会においては、国立天文台から専門講師を招き、最新の天文情報を分かりやすく伝えることを目的に講演を実施。学習投映については、青少年宇宙科学館と連携し、冬には若田宇宙飛行士アカデミーの共同開催も行った。プラネタリウム運営事業においては、プラネタリウム番組を利用する年齢や興味・関心別に分類した番組枠を設定し、利用者ニーズとのマッチングを高め、利用満足度を図った。解説は、専門資格を有した個性豊かで専門性の高い解説員を配置し、プラネタリウムメーカーならではのハイブリッドプラネタリウム機能を駆使した演出を取り入れ、バラエティー豊かな投映を行った。<br>また、パブリックビューイング「部分日食」、「野口さんISS 到着」、「HIIA ロケット 43 号機打ち上げ」、「はやぶさ2カプセル分離」の実施。<br>なお、新型コロナウィルス感染拡大防止に伴う臨時休館の対応として、「ゆるっとプラネタリウム」、「ベビー＆キッズ劇場」、「おうちで日食をみよう」、「おうちでお月見をしよう！」等をYoutube、Twitter、ブログにて配信。 |
| 地域団体への支援活動 | 日本宇宙少年団さいたま支部や、さいたまプラネタリウムクリエイトに対する活動支援を行った。また、さいたま市青少年宇宙科学館、埼玉大学との連携事業として地学実験教室も行った。 |
| 利用促進・広報活動 | ホームページの随時更新を行い、Twitter公式アカウントとブログにより宇宙劇場のイベント情報や、投映内容、天文現象等の楽しみ方を積極的に発信した。また、電子媒体による広報、「宇宙劇場まつり・プチ！」の開催、地元放送局のＮＡＣＫ５との連携事業を行い、宇宙劇場の広報活動の強化を図った。 |

３．評価

（1）指定管理者による評価

本年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたことにより、当館も一部の期間が休館となり、安全を確保しながら利用促進を図るなど、大変苦慮した一年となった。
運用面では、感染防止対策の取り組みを徹底し、且つ、オンライン用のコンテンツの制作し、SNSの活用による配信も同時に提供するなど、利用者の皆さまと職員の安全を確保しつつ、ご来館いただけない方々へも配慮した運営を心がけた。
この様な中でも、プラネタリウム投映業務の他、教育普及業務、学校教育支援業務、地域支援業務を青少年宇宙科学館とも連携しながら実施し、1月に開催したイベント投映では、さいたま市出身の若田宇宙飛行士から直接頂いたビデオメッセージを市民の皆さまへお届けすることも叶った。その他にも市民ボランティア皆さまとの連携により、定例の観望会では人数を限定し、本物の天体を直接見て頂く機会を提供することもできた。
また、本年度は指定管理者第三者評価を実施いただき、大変高い評価をいただけたことを嬉しく思うと同時に、ご指摘をいただきました点については、真摯に受け止め更なる改善の努力をしていく所存である。
前述のご指摘事項の改善にあたり、宇宙劇場の設置目的より施設ミッションやビジョンの再設定も職員一同の参加するワークショップによって行った。このことにより、日常業務を遂行する上での職員の活動のベクトルを揃えることで、施設の設置目的を常に意識し、実現を目指す事ができるように全職員で確認した。なお、施設ミッションは「わくわくへの架け橋に！」、ビジョンは「くらしに豊かな彩を」となった。また、この施設ミッションとビジョンを念頭に、今後3年間の中期計画も策定した。この新たなミッション・ビジョンと中期計画を職員一同で取り組むことにより、次年度以降もいっそう多くの市民やそれに限らず広く利用者に愛される施設づくりができると確信した。今後とも、より魅力的なプラネタリウム運営と、集会室等の貸し出し事業を行うことで、利用者の満足度向上と、利用促進を図る。

（2）さいたま市の評価（評価担当課：教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館）

総合評価（B）※A～D
・指定管理者として本年度は3年目を迎え、市民誰もが安心安全に利用できる施設運営が行われている。特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置が出される状況に応じ、館運営を進め市民サービスが下がらぬようあの手この手の方策で社会教育の場を提出した。
・指定管理者第三者評価をはじめ各調査の機会があり、それらの評価を踏まえ所管課と指定管理者との連携が高まり、よりよい経営の方向性を見出すことができた。
・コロナ禍においても、質の高い魅力的な投映番組やオンライン発信等、科学や天文普及に努めた。

（3）来年度の管理運営に対する指導事項等

・指定管理4年目となる令和3年度は、新たに設定したミッションやビジョンを基に、全職員一丸となり事業展開を図ること。もって、更なる入場者数の増加、市民満足度の向上を目指すこと。
・新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る措置に応じた運営の下、さらにサービス向上を図るため、利用者ニーズとのマッチングする事業を展開すること。